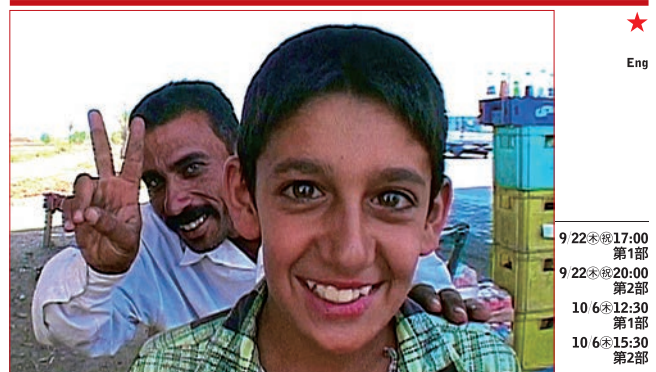


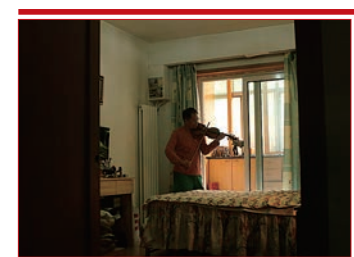
全作品日本語字幕付き ★YIDFF2015上映作品 ★YIDFF2015 ラテンアメリカ特集関連作品 Eng-English dialogues or with English subtitles 英語または、英語字幕付き



●YIDFF2015 優秀賞、市民賞 ◆2003年バグダッド。大家族の生活はアメリカの侵攻で大きく変わって、2年間にわたる記録を通し、戦争に侵食されていく日常を鋭く描き、絶賛された。



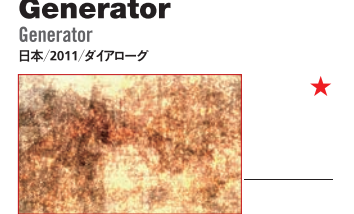
●YIDFF2015 特別賞 ◆アルゼンチンの古い館に年齢も様々な一族の女性9人が集り。老いた者は死を迎え、若い肉体は新しい命を宿す。女性の世界だけが神話のように立ち顕れる。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆鉄道職人、バイオリン制作者、航空会社の客室乗務員のカップル、漫才師でありTV局職員。天津を舞台に、5人5色な人生の一曲が温かく紡がれる。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆インド北部に伝わる「ケサル物語」について少年たちが大人たちから受け取る物語とは――。ミャンマー南部の漁村の悲喜こもごもを描く「船が〜」と併映。10/2回のみ、「ギボト」も併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆中東出身の男たちが集り、町の街角の店で、監督はレバノンから移民した父を重ねる。映画を学ぶために滞在した街の音色を奏でる「わたしは〜」と併映。

# インターナショナル・コンペティション International Competition

世界各地から届けられた、山形国際ドキュメンタリー映画祭史上最多の1200本近くの応募作品から選ばれた選りすぐりの逸品の数々。世界の今を描く作品から、ヤマガタお馴染みの監督、新人までドキュメンタリー映画の多様さを実感するプログラム。併せて過去の上映作から関連作品も上映。



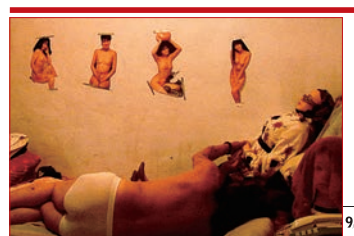
◆ナポリのサニタ地区、4世代からなる女ばかりの一家が暮らす部屋。感情豊かな女性たちの日常と声が形作る魅力あるドラマ。日常が私たちに語りかけてくる。



◆シンガポで性暴力の被害女性を支援するアレンダ。問題を抱えた女性たちの話に耳を傾ける彼女自身、結婚としての過去を持ち、性的暴行を受けた経験があった。



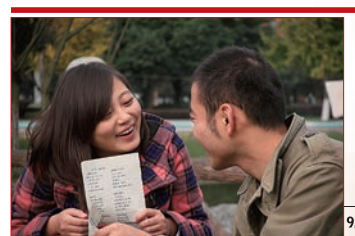
◆2014年、サッカーワールドカップを控えたサンバウ。経済政策などに不満を抱くデモやストライキが頻発。4人の男たちの姿を通して社会的かつ雄弁に描く。



◆1927年、中国河北省生まれ、国内内戦、朝鮮戦争をして国民党政府が率いる台湾へ。激動の人生を生きた男の波乱万丈の過去を、娘である監督が辿る。



◆一人の記録映画作家が40年ぶりに訪れたパラグアイ。彼が映画作家となる道を見出した思いは、ある女性との恋愛と、独裁政権下の記憶が絡み私的映像詩を形作る。



◆山西省に暮らす高校生チャオは日本の災関諸島「占領」に憤り、人民服姿で愛国を叫ぶ人気者。だが日々の暮らしの中、権力の腐敗を目にし愛国心に変化が生じる。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆わたしはまだテリ-を見ていない I Am Yet to See Delhi



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆インド北部に伝わる「ケサル物語」について少年たちが大人たちから受け取る物語とは――。ミャンマー南部の漁村の悲喜こもごもを描く「船が〜」と併映。10/2回のみ、「ギボト」も併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



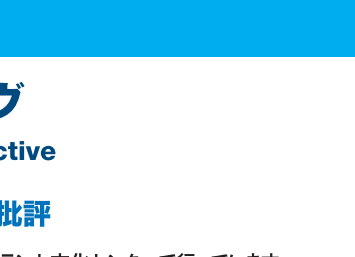
★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆ボスニアの炭坑で黙々と働く坑夫たち。光と闇にうごめく彼らをひたすら見続ける。1974年制作のバリエーション映画をモチーフにした「虐げられる〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆インド北部に伝わる「ケサル物語」について少年たちが大人たちから受け取る物語とは――。ミャンマー南部の漁村の悲喜こもごもを描く「船が〜」と併映。10/2回のみ、「ギボト」も併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。



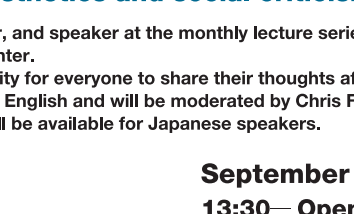
★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。



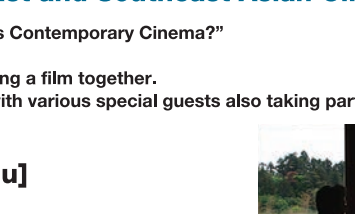
★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。



★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。

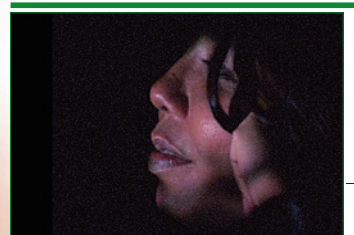


★YIDFF2015 アジア千波万波 特別賞 ◆新年の祭の喧騒をよそに、テヘランの公園の片隅で暮らす女性の14日間を描く。お参りをする女たちとウルドゥー-古典詩の世界をつなぐ「七度目〜」と併映。

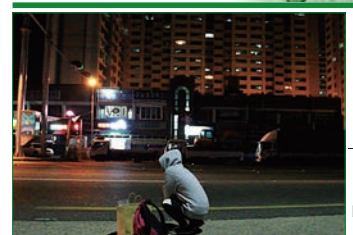


# アジア千波万波 New Asian Currents

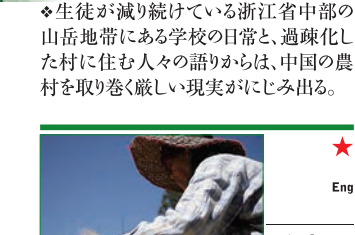
ヤマガタの名物として毎回、注目を集める“アジア千波万波”ドキュメンタリー映画作家、小川紳介が提唱した、アジアの若い作家たちを発掘、応援するプログラム。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



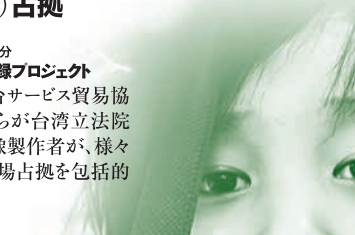
★YIDFF2015 日本映画監督協会賞 ◆中学時代に父親から性的暴行を受けていたイルカは、妹と同じ被害にあわせてくれない一心で、母親や親戚に反対されながらも父を裁判にかけ、証言台に立つ。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。



★YIDFF2015 アジア千波万波 奨励賞 ◆2006年、ある男が手渡された2014年のシンガポールのフィルム。その時代に生きる人の物語とこの地の抑圧と抵抗の歴史の残骸が交錯し、SF的な空気を超える。

## 城西国際大学×映画批評コレクティブ

Josai International University and Film Criticism Collective

### ディスカッション・イベント: アジア映画における美的かつ社会的批評

映画批評家のクリス・フジワラ氏は、現代映画についての上映&連続レクチャーをアテネ・フランセ文化センターで行っています。ドキュメンタリー・ドリーム・ショーではひとつの実験として、参加者が共にひとつの作品を鑑賞し、その映画について語り合う機会を試みる。ディスカッションは、フジワラ氏と特別ゲストと共に英語で行う。英語が必ずしも堪能でない方も言語サポートをお互いに行いつつ、一緒に語りましょう!

#### Discussion Event: Aesthetics and social criticism in East and Southeast Asian Cinema

Chris Fujiwara, film critic, author, and speaker at the monthly lecture series "What Is Contemporary Cinema?" at Athénée Française Cultural Center. This event provides an opportunity for everyone to share their thoughts after watching a film together. The discussion will take place in English and will be moderated by Chris Fujiwara, with various special guests also taking part. Informal language facilitation will be available for Japanese speakers.

9月22日 (木・祝) 13:30—開場 14:00—上映「うたうひと」 16:00—18:00 ディスカッションとまとめ

September 22 [Thu] 13:30—Open 14:00—Screening "Storytellers" 16:00—18:00 Discussion

ディスカッション後には、懇親会を予定しております。引き続きご参加ください。

「うたうひと」 Storytellers 日本: 2013 日本語: blu-ray / 120分 監督: 濱井耕、濱口竜介 Japan/2013/Japanese with English subtitles/blu-ray/120min Directors: Sakai Ko, Hamaguchi Ryusuke

#### シンポジウム: 批評としての映画

YIDFF2015に「映画批評コレクティブ」を国際交流基金アジアセンターの協力を得て、立ち上げ、「映画批評コレクティブ1」を刊行しました。出版を記念し、シンポジウムでは東・東南アジア映画における政治的・社会的批評のあり方を探る。内容としては、現代ドキュメンタリーや劇映画における批評的実践、政治的に批評的な映画の配給や資金探し、メディア批評としての映画の役割などについて扱う。

登壇者: クリス・フジワラ (映画批評家)、北小路隆志 (映画批評家)、テン・マンガンサカン (映画監督、映画祭ディレクター、映画批評家)、筒井武文 (映画監督、映画批評家) ※日本語・英語の逐次通訳あり

#### Symposium: Film as Criticism

The Film Criticism Collective was launched at YIDFF 2015 with support from Japan Foundation Asia Center. Recently, the collective published Film Criticism Collective 1, an anthology of critical thought on East and Southeast Asian documentary cinema. This symposium will explore political and social criticism in East and Southeast Asian films. Topics to be addressed in the symposium include formal strategies of critical practice in recent documentary and fiction films; funding and distribution for politically critical films; and the role of cinema as media criticism.

Panelists: Chris Fujiwara (Film critic), Kitakoji Takashi (Film critic), Tsutsui Takefumi (Filmmaker, Film critic), Teng Mangansakan (Filmmaker, Festival director, Film critic)

9月23日 (金) 18:00—開場 18:30—20:30 シンポジウム

September 23 [Fri] 18:00—Open 18:30—20:30 Symposium

会場: 城西国際大学メディア学部 (紀尾井町キャンパス3号棟) 3304教室 入場無料

Venue: Room # 3304, No.3 Building, Kioicho Campus Faculty of Media Studies, Josai International University Entry free

共催: 城西国際大学メディア学部、国際交流基金アジアセンター ASIA Center

## 城西国際大学

● 城西国際大学東京紀尾井町キャンパス3号棟: 千代田区平河町 2-3-20  
● 問い合わせ: 城西国際大学東京紀尾井町キャンパス TEL 03-6238-8500  
アクセス: 地下鉄麹町駅より3分、永田町駅より5分